

保 存 活 用 計 画 書

景観資産の名称	けいはんなプラザ日時計広場 ～自然と共存する学研都市のシンボル空間～
申 請 者	けいはんな日時計レーザーの会

代表写真



1 位置及び範囲

【登録範囲と範囲設定の考え方】

けいはんなプラザの日時計及び日時計広場、広場と接する精華大通り歩道を一体として登録範囲とします。

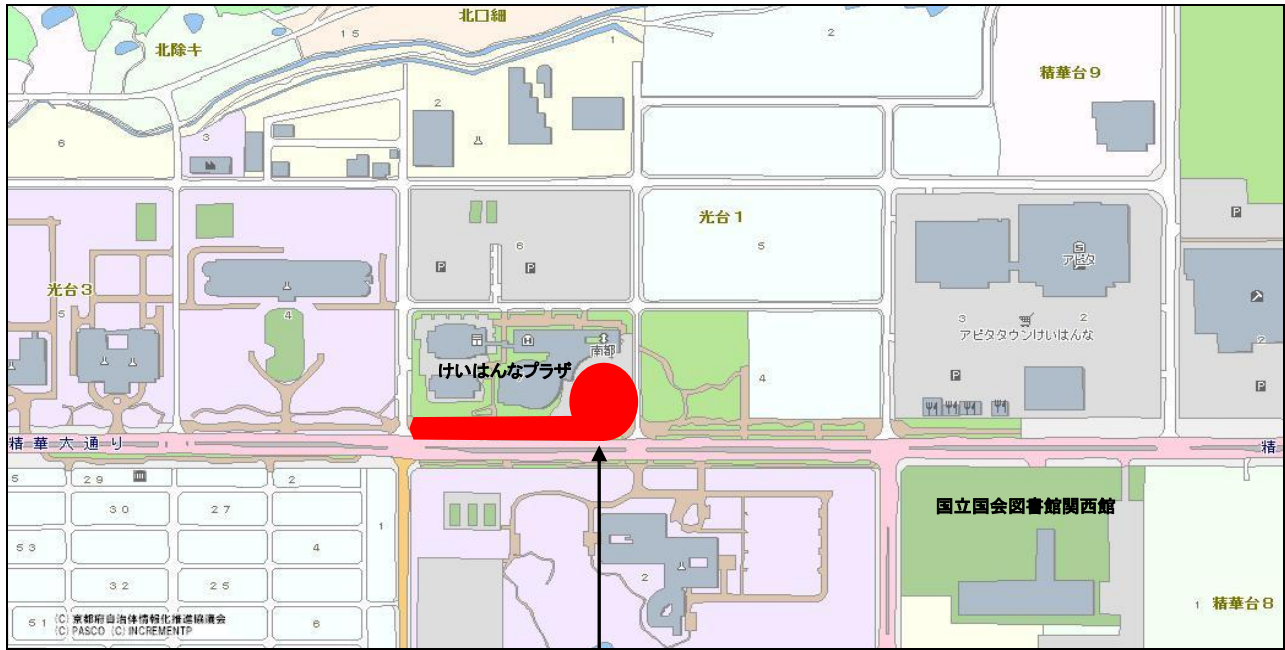
日時計と日時計広場は、日時計の針と文字盤となっており、けいはんな学研都市全体のシンボリックな空間となっています。最近では、様々なイベントが開催され、地域の人々が集い賑う場所として利用されています。当会では、日時計の所有者である(株)けいはんなと協力して、日時計及び日時計広場の景観保全と賑わいの創出に取り組んでいきます。

また、日時計広場と接する精華大通りの歩道には、街路樹や植栽による豊かな緑のほか、親水施設も整備されており、日時計広場と連担して美しい景観を形成していることから、この空間を一体として捉え、景観保全に取り組んでいきたいと考えています。

【位置】



自然との共存は精華町のまちづくりにおいて重要なテーマであり、歴史的な交流を通して、個性豊かなまちを構成してきました。日時計モニュメントもその歴史の一部であり、人工物と自然との一体感や親和性を表すシンボルとして存在しています。先端技術と豊かな緑との共存を示す存在としても、長期的な保全に取り組むと考えています。



けいはんなプラザ日時計広場と精華大通り歩道

2 自然、歴史、文化等からみた特性

□景観資産の魅力

関西文化学術研究都市（愛称「けいはんな学研都市」）は、京都・大阪・奈良の3府県にまたがる京阪奈丘陵に、国家プロジェクトとして建設されてきました。

けいはんな学研都市の中心クラスターとして建設が進んだ精華・西木津地区は、日時計広場を含むセンターゾーン全体が、都市景観100選に選定されており、けいはんなプラザの日時計は、中核施設として建設された

【けいはんなプラザと日時計】

「けいはんなプラザ」の敷地内に存在し、学研都市のシンボル空間として設計・建設されました。この日時計は、文字盤の面積が世界一としてギネスブックに掲載されています。また、文字盤を含む日時計のまわりは広場になっており、イベントが開催されるなど、地域の人々が集う場所としても利用されています。



□自然的特性

学研都市の精華・西木津地区は、京阪奈丘陵を切り拓いて開発が進みました。そのため、周辺地域には里山や田園風景が広がり、豊かな自然を感じることができます。

また、当該地区は、「関西文化学術研究都市（京都府域）における景観の形成に関する計画」による景観形成が図られています。「京阪奈丘陵の地域環境と調和した格調高

く、緑豊かで親しみやすい景観の形成」という方針のもと、施設整備に際しては建物の外観だけでなく緑化計画についても景観形成の対象となっており、通常よりも高い緑地率の設定や地域の既存植物種に配慮して植栽を行うことなど、可能な限り緑地を保全するような指導が図られています。

このような景観形成の方針により、都市部でありながら豊かな自然環境にあり、自然と生活の調和を目指した景観形成が図られています。

日時計の周辺においては、学研都市のシンボルロードである精華大通りが日時計の南側を走っており、メタセコイアの並木が立ち並び、美しい風景となっています。特に紅葉の季節には、木々が色づき、非常に美しい空間を演出しています。

□歴史・文化的特性

日時計は、けいはんなプラザとともに平成5年に完成しました。日時計の針の先端からは、北極星に向けてレーザー光線が照射されており、けいはんな学研都市の先端性や未来の象徴として、地域に住む人や働く人たちに希望を与える存在となっていました。

また、日時計広場では、コンサートやビアガーデンなどが開催され、人々が集う場所にもなっていました。

しかし、レーザー光線は機器の故障等により3年程で消えてしまうと、復活することはありませんでした。その後は景気低迷の影響などにより、日時計広場の賑わいについても次第に消えていきました。

けいはんな学研都市に再び活気を取り戻すため、まずは学研都市のシンボルである日時計レーザー光線を復活させようと、平成22年10月、地域の住民や企業、団体などの有志が集まり、「日時計レーザーを復活させる会」を設立しました。

復活の気運を盛り上げるためのイベント開催やレーザー機器の購入のための募金活動などに取り組んだ結果、平成24年3月9日にレーザー光線は復活し、現在では毎日、日没予定時刻の30分後から深夜12時まで点灯されています。

この復活を機会として、日時計広場を再び地域の人々が集う場所としたいと考えており、コンサートや各種イベントの開催を実施・計画しています。

□周辺環境との関係

学研都市 精華・西木津地区には、シンボルロードである「精華大通り」が地区を東西に通っています。

精華大通り沿いには、国立国会図書館関西館や(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)などの施設が立ち並び、格調高く美しい街並みが広がっています。

日時計と広場も精華大通りに面しており、地区のシンボリック空間として、街並みを形成しています。

また、精華大通りの歩道は約14mあり、植栽による豊かな緑のほか、親水施設も設置

【学研都市風景 精華大通り】



されており、通行する人々に親しみを与える空間が広がっています。

3 景観の保存、育成及び創造に関する事項

□法律や条例などによる景観上の規制誘導事項

- ・都市計画区域（市街化区域）
- ・地区計画有り
- ・「関西文化学術研究都市（京都府域）における景観の形成に関する計画」に基づく景観形成の規制・誘導

□景観づくりの目標像

けいはんなプラザの日時計とその広場は、学研都市のシンボリック空間として、「広く人々に親しまれ、学研都市で展開される交流活動を予見させる」というコンセプトの元で設計されました。

日時計のレーザーが復活し、広場ではイベントなども開催され、地域の人々の集う場所としての認識が広がってきています。今後についても、日時計広場を舞台とした賑わいの創出や情報発信を継続・発展させていきます。

□景観づくりの取組

【現状】

機械設備の故障等により消えてしまっていた日時計のレーザー光線を、地域の住民や企業、団体の有志が中心となって発足した「日時計レーザーを復活させる会」（平成22年10月設立）が中心となり、復活に向けて取り組んできました。

数回に渡るイベントの開催などにより、日時計のレーザー光線についての地域の認識を広めるとともに、復活に対する気運の上昇に取り組みました。また、地域住民や企業等に対して協力を呼びかけ、レーザー機器購入のための募金活動にも取り組みました。

その結果として、多くの地域住民や企業、団体からの協力を得て、平成24年3月9日に日時計のレーザー光線が復活し、現在では日没後から深夜12時までレーザー光線が毎日照射されています。

【日時計レーザー照射】



【日時計広場でのイベント】



【課題】

日時計のレーザー光線が復活し、日時計には建設された当時の姿が戻りました。

しかし、一方で、広場の下地部分が劣化してきており、今後、日時計広場を中心とした情報発信やイベントなどの開催を考えた際には、整備が必要です。

また、日時計と同様に学研都市のシンボルとなっている精華大通りについて、歩道内に親水施設が敷設されていますが、コストや整備の問題により、水の流れが停止している状態にあります。

特に、日時計広場前の精華大通りの歩道は、日時計広場と連担した景観を形成しており、親水施設の水の流れについても復活させ、日時計やその周辺施設が本来持っていた素晴らしい景観を取り戻したいという思いがあります。

【解決のためのアイデアや方針】

日時計広場の整備については、文字盤部分への配慮など、これまでの景観を損なわないよう配慮をした上での整備を行う必要があります。整備には費用もかかることから、今後の課題となっています。

精華大通りの歩道の親水施設については、行政に対して、水の流れを再開して欲しい旨の要望なども行っていますが、費用等の面からなかなか難しいのが現状です。

水の流れの復活が難しいのであれば、親水施設に土を入れ、植栽により水の流れを表現するなどといった方法で、景観の向上に取り組むことができないか、行政との話し合いを行っています。

しかし、この件についてはすぐに結論が出る問題ではないことから、まずは、親水施設そのものではなく、その周辺部分への植栽等に取り組んでいきたいと考えています。

平成25年10月28日には、取り組みの第一弾として、歩道の植栽部分に、水仙の球根の植え付けを行いました。精華大通りについては、当会とは別の団体で、以前から景観保全に取り組んでいる団体があり、その団体と連携をとりながら、保全活動を進めています。

今後も景観保全や植栽の取り組みを継続していく中で、行政との話し合いも継続し、いずれは親水施設への植栽にも繋げていきたいと考えています。

【親水施設と植栽】



【植栽作業の様子】



4 景観を活かしたまちづくりへの展開に関する事項

□景観を活かしたまちづくり活動

〔現状〕

レーザー光線の復活の取り組みと合わせて、このシンボル空間に賑わいを取り戻そうと、日時計レーザーの会が中心となって数回にわたるイベントを開催してきました。

平成25年7月にも同会が中心となって、イベントを開催したところ、約800名の参加者が集まり、賑わいを見せていました。また、8月には、(株)けいはんながイベントを企画し、約2,000名の参加者が集まり大きな賑わいを見せていました。

11月には、初めて地域住民を主体とする団体によってイベントが計画・実施され、大盛況のもと開催されました。

これらのイベントを通して、人が集う空間としての日時計広場のイメージが、地域に定着してきています。

【(株)けいはんな 8月イベント】



〔課題〕

これまでのイベント開催によって、日時計広場は人が集い賑わう空間として、地域に定着してきています。

しかし、日時計と日時計広場が学研都市のシンボリックな空間として、人が集い賑わう空間として末永く続いていくためには、広場でのイベントや情報発信の取り組みが継続

的に開催される必要があります。

平成 25 年 11 月には、初めて当会以外の地域団体がイベントを開催しましたが、このような取り組みが継続されるとともに、他の団体などからの取り組みも生まれてくる必要があると考えています。

[景観を活かしたまちづくり活動のアイデアや方針]

けいはんなプラザやその周辺の研究施設等では、研究発表や企業情報発信のイベント、文化的なイベントなどの催しが多数開催されています。そのような機会に、日時計広場での催事の開催や日時計広場を含めた形での開催形態など、利用促進につながるような PR を検討していきます。

5 その他必要な事項

□提案団体の概要

■組織名：けいはんな日時計レーザーの会

■設立日、所在地、会員数

- ・設立日：平成 22 年 10 月 12 日（日時計レーザーを復活させる会として設立）
その後、平成 25 年 1 月 1 日、けいはんな日時計レーザーの会に名称変更
- ・所在地：精華町光台一丁目地内
- ・会員数：約 80 名

■設立目的：関西文化学術研究都市のシンボルである日時計レーザー光線の恒久的な照射を実現するとともに、学研都市の住民、企業、地域団体の相互の連携による地域活動を促進し、都市の発展に貢献する。

■役員：会長 岩本 泰一

副会長 齋藤 恵彦

〃 山口 隆史

理事 池内 詠子

〃 井原 浩二

〃 木村 治久

〃 貝本 忠彦

〃 片山 千晴

〃 栗山 和郎

〃 橋本 茂美

〃 淵上 正博

監事 廣瀬 亮二

※当会には(株)けいはんなの代表取締役に参加いただき、実際の会議には担当者の方にも参加をいただいております。今後も管理・維持等においては、(株)けいはんなと連携し、取り組みを行っていくこととします。

■これまでの活動経過

- ・平成 22 年 10 月 12 日 レーザー照射イベントを実施

- 平成 22 年 10 月 26 日 地域住民、団体、企業等の有志により会を設立
- 平成 23 年 3 月 25 日 復活に向けたイベントを計画するも東日本大震災を受けてイベント中止
- 平成 23 年 7 月 29 日 復活に向けたイベントを再度計画し実施、平成 24 年 3 月 11 日を目標に募金等によるレーザー復活を目指すことを発表
- 平成 23 年 11 月 6 日 「国民文化祭京都 2011」の関連イベントとしてレーザー照射イベントを開催
- 平成 23 年 9 月～平成 24 年 1 月 地域住民や企業等に対する募金活動を実施
- 予定額を超える募金が集まり、レーザー機器を購入・設置
- 平成 24 年 3 月 9 日 日時計レーザー復活イベントを開催
- 平成 25 年 7 月 19 日 日時計広場を使ったイベントを開催
- 平成 25 年 10 月 28 日 精華大通り歩道での植栽活動
- 平成 25 年 11 月 16 日 日時計広場及び精華大通り歩道の美化活動（ゴミ拾い）
- 平成 26 年 7 月 6 日 日時計広場及び精華大通り歩道の美化活動（草刈）

■景観資産の登録範囲における団体の活動

- 持続的なイベントの実施（年 1～2 回） 日時計レーザーの会主催
- 精華大通り歩道部分の植栽や清掃など、環境保全・美化活動（年 4 回）